

神龍半印本蘭亭序

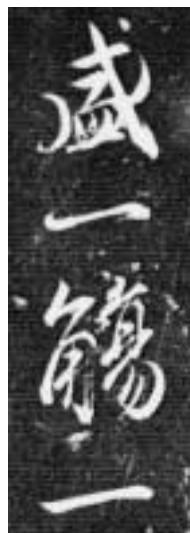
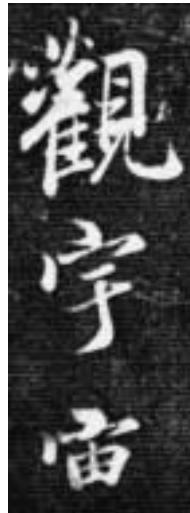
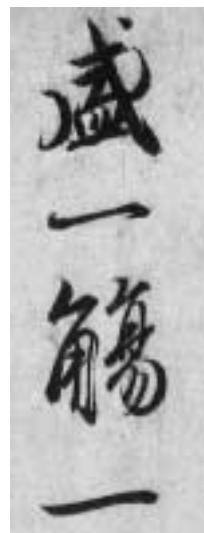
三五三年
(東晉・永和九年)

碑 法 帖 拾 遺 ⑪

木 雜

木 雜 室
伊 藤 滋

刻本と模本の比較



「馮承素摸蘭亭序」

永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事

今年の夏は、江戸東京博物館にて北京の故宮博物院に伝わる「馮承素摸蘭亭序」が展覧された。多くの読者の方もご覧になられたことでしょう。今回紹介する「神龍半印本蘭亭序」は、あの「馮承素摸蘭亭序」をもとに16世紀頃に石に刻されたと伝えられています。「神龍半印本」という呼び方は、巻頭の神龍の印が、縦に二分され、左側の「示音」が巻頭にあり、「神龍」の右側部分は巻末にあることによるものである。数種類の「神龍半印本蘭亭序」が刊行されているが、図版に示した16世紀の明時代の豊坊という人物の刻したもののが一番優れている。

「馮承素摸蘭亭序」と石に刻され拓本に取られた「神龍半印本蘭亭序」と比較するとほぼ同じであるが、何か印象が異なる。拓本に取られた文字の方が力強く生彩が感じられる。この違いは右頁の數文字を、細かく比較してみると確認することができます。模本の方が字画が少し力が無いように感じられます。この刻本は、果たして「馮承素摸蘭亭序」をもとにしたのであるうかとの疑問を感じます。

永和九年，歲在癸卯，暮春之初，會於會稽山陰之蘭亭，脩禊事也。群賢畢，少長咸集。此地有崇山峻領，茂林脩竹，又有清流激湍。



書道藝術院 平成の書(2008)

「獨歩青天」



70×51cm
2006年書道藝術院秋季展出品作



鳥山岳風

財團法人書道藝術院

常任顧問

篆刻は、「漢字」・「かな」と同様に長い歴史と伝統によって育まれてきた。その篆刻の世界に、私が手を染めたのは昭和40年代の後半のことである。程なくして、故千田得所先生に師事し、以来、當々と修行してきたつもりであるが、未だにこれぞと思える作品はなかなかできない。「日暮途遠」を感じる昨日である。特段の才能もなく、好きなだけで始めた私は、生涯学び続ける以外に道はないと思っている。一方、書の方は、從来の漢字・かな、その他に、現代書といわれる少字数書・近代詩文書・前衛書等々、新しい世界が隆盛をきわめている。

この新しい書それぞれに違和感なく溶け込んで、作品と渾然一体となる「印」とはどのようなものか? この研究は、篆刻家に与えられた使命の一

つであると思っているのであるが、篆刻家だけ負うことのできる問題であろうか。ここに、書作家(ユーモー側)からの具体的な要望とか所見というものが示されるようになれば、現在よりも、さらに、よい結果が得られるようになるものと私なりに期待している。

香川峰雲先生の生誕百年記念展で拝見した先生の前衛的ともいえる篆刻作品には、全身を熱くさせられた。それを機に、新しい冒險的な篆刻に進む人も出てきて、大変結構なことであると思っている。

私自身は、若い人達に、古今の名印の模刻を基に、千田得所先生から私に託された篆刻の醍醐味というものを伝えることに専念し、次の世代に、書道藝術院の篆刻部に羽ばたく人の育成に努力しているところである。

書のひろば

理事長 恩地春洋

ブラジル展と イグアスの滝

年振りに毎日書道会がサンパウロ展を催した。日本から出品作家ら107名が訪り、開幕式、祝賀会に参加した。 ブラジル移民資料館や毎日新聞移民写真展、イグアスの滝などを見学した。 書道芸術院は、恩地春洋、下谷洋子、千葉蒼玄など11名が参加したが、正式報告は、太田蓮紅さんに譲り、ここで私は私の気ままな記録と感想を書き止めておく。

◇船本芳雲さん講演

10月20日街の見学から急いでサンパウロ美術館の講堂に帰ったが船本芳雲さんの講演は既に始まっていた。芳雲さんは通訳と冗談も交えながら、巧みな話術で書の概略の説明を進めた。芳雲さんは味のある熟語や専門用語を、噛みしめるように確かめながら説明した。作品鑑賞は、一番よく知っているから説明しやすく、師青木香流の人間と作品を丁寧に紹介した。「作家論」で納得した。作品論のみでなく、作家

◇国宝 尾形光琳「紅白梅図」
西林總領事公邸夕食会に招かれた時のこと、私の座っていた正面に「山」の絵があり、その両脇に光琳の「紅白梅図」が半分に分断されて掛けられていた。写真だったが、壁面に收まらないことはないとは思ったが、熱海MOAで見た絵が目に浮かんで落ちつかなかった。隣に座っていたサンパウロ新聞編集局長（？日本人一世）に話したが「写真を売ってたんじゃないですか」と終わった。気になって仕方のないサンパウロの第一夜だった。

◇サンパウロ美術館（M A S P）
正式にはサンパウロ・アシス・シャトーブリアン美術館。ラテンアメリカで主要な美術館の一つで、リナボバルディ（女性建築家）設計、四本の赤い柱によって支えられた高床式建築でサンパウロの名所の一つである。

この二階で「現代日本の書代表作家サンパウロ展」（10月14日～11月9日）

3階 所蔵作品展（平常展）火曜無料時代の有名画家（ボッティエリ、ノアール、マネ、モネ、セザンヌ、ドガ、ゴッホ、ロートレックなど、ドガの彫刻コレクション（ブロンズ像73品）はこの美術館の花形で、ニューヨークのメトロポリタン、パリのオルセー美術館と比肩するという。

◇移民資料館と「毎日新聞に見るブラジル移民の写真展」
大阪の事業本部長から、大毎（大阪毎日新聞）時代からのブラジル移民の話聞いたのはこの春だったろうか。話が東京事業部に移り、どうなつたか月2日までブラジル移民資料館8階で催された。サンパウロ新聞は数回に分けて関連記事を掲載した。

100周年記念行事が計画され、「ブラジル日本移民小史」も出版されているが初期の苦労を読み、資料館の資料を見ながら、先人の苦労を思い涙した。今回のガイドさんは、徳島出身で、大阪外大出身、戦後ブラジルに入国した人だった。その後、移民が中止され逆に、二世三世が日本に出稼ぎに來た時代もあったようだ。

第60回毎日書道展に出品し、佳作に入賞した人も出てくる時代となつた。国際高校生選抜書展には第一回から出品してよい成績をあげられた。若松



千葉蒼玄氏 挥毫

の人物像を含めた評論、なんでその作品が生まれたか、の背景まで紹介しなければ作家論にならないということが私の持論で師青木香流を取りあげたことも同感だった。芳雲さんは香流作品の中の童謡や民謡などが出て来ると自ら歌って観衆（聴衆）から、ヤンヤの喝采を浴びた。専門用語や熟語のボルトガル語の翻訳が間違いないとすれば大成功の講演だったと思う。

◇悪魔の喉笛（イグアスの滝）
アルゼンチン側からの観光の圧巻は広大な瀑布イグアスの滝だった。悪魔の喉笛は恐ろしい程の迫力であり、圧力だった。イグアスは、自殺の名所であるとか、殆んど死体はあるがらないという。
ブラジル側は、イグアスの瀑布に沿って、アップ、ダウンしながら対岸の滝を見つづ歩く。ふと道の脇に大とがめが、じっと動かなかったり、穴ぐまに出会つたり……、大きな花の露草や滝風にゆれる名も知らぬ小さな花もあつた。
観光トロッコの横はジャングル、幾十も幾百もいる小さな蝶の塊、その羽の模様は美しかった。
滝壁に突っ込み消ゆる飛燕あり

交流功労者の一人である。

現代詩文書 (二)

尾形澄神



現代の詩歌と書の世界 (2006年) 尾形澄神書 35×47cm
「風の聲きく 吹きぬける風の心地よさ (自詠)」 ふっと
頭に浮かんだことばを、ぱっと書いた…そんな一期一会のよ
うな作品。破綻をきたした「く」の字が、逆にアクセントにな
った気がします。

現代の詩歌と書の世界 (2006年) 尾形澄神書 35×47cm
「風の聲きく 吹きぬける風の心地よさ (自詠)」 ふっと
頭に浮かんだことばを、ぱっと書いた…そんな一期一会のよ
うな作品。破綻をきたした「く」の字が、逆にアクセントにな
った気がします。

「臨書は、兼毫か羊毛の中鋒を使うのが基本」というのが私の考え方です。いきなり特殊な毛質の筆!! 例えば鶏毛筆や珍毫筆、あるいは穂が特に長い超長鋒などから使い始めると、筆に翻弄されて、曖昧な筆遣いのまま書の道を歩むことになります。ごく普通の筆をある程度コントロールできるようになって、初めて用筆の基本がわかります。「書は人なり」と言います。しかしそれは30年40年と研鑽を重ねてきて、

はじめて口にできる言葉です。私は、書道は鍛錬道だと思っています。古典を繰り返し臨書することは鍛錬です。鍛錬を積み重ねながら、自分自身を磨いていくのです。技術を高めることは己を高めることだと思っています。

展覧会に出す作品は、どんな筆を使つても構わないと思います。展覧会は自己表現の場ですから、用具・

用材いろいろ工夫し、吟味するのは大切な作業です。また臨書も、その古典に馴染んできたら、その時々の気分に応じて筆を変え、今度は自分なりの解釈を加えながら思う存分料理していくべきなのです。臨書はあくまでも解釈です。

（創造の反対語は模倣）

書は、臨書（形臨・意臨・背臨）が基礎にあり、創作へと発展していきます。効果のあがる学習方法としては、これを繰り返すことでしょう。

漢字 (二)

大内熒軒

21世紀の書

—私の主張—

「一鳴驚人」



大内熒軒書

33×24cm

もちろん見る力を養うこともとても大切のは言うまでもありません。私たちの創作活動は、過去の積み重ねにより新しいものを生み出しています。

基本的に筆で文字を表現しているのが書です。その文字が扁平だらうと、線の太さも自由で、表現方法は∞です。そして遊び心を加えるともっと楽しいでしょう。ただし、文字の約束は守らなければなりません。

この作品は、穂やかさをイメージし、粗密のある文字を書いてみました。時には思い切った発想や、筆遣いなどを工夫して想定外の作品ができるかもしれません。も楽しいと思います。

「創作」を広辞苑で調べると、「はじめてつくること。創造。芸術的感興を文芸・絵画・音楽などの芸術作品として独創的に表現すること」と記されています。（創造の反対語は模倣）書は、臨書（形臨・意臨・背臨）が基礎にあり、創作へと発展していきます。効果のあがる学習方法としては、これを繰り返すことでしょう。

平成20年度 新審査会員作品

II

星野英蘭（達）・須田清子（か）・武山櫻子（現）・三谷嶺雲（達）

星野
英蘭
(千葉)

「長樂永康」



「長樂永康」は中国の友人に
いただいた四文字。精神と肉
体のバランス。常に願って大
切にしております。

五十の手習いを始めて二十数
年、暗中模索の中で尊敬する
師、諸先生、きびしい書友に
支えられた事実に深く感謝。
出来れば熱き心を忘れず邁進
して行きたいと思っておりま
す。（英蘭）



武山
櫻子
(宮城)

「少年の夏」石井久美詩

詩文がとても大好きで書い
た作品です。小さな紙面をい
かに大きくみせられるか、悩
みました。でもわからず夢中で走って
來た10年でした。これからは
じっくりと歩んで行きたい
『書の道』です。（櫻子）



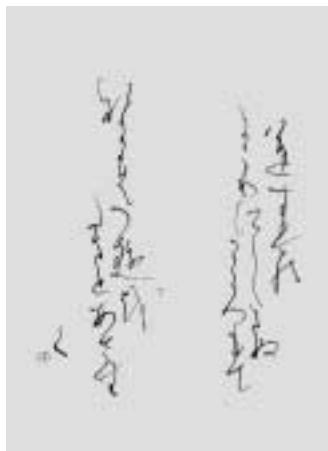
三谷
嶺雲
(高知)

「光」

この度、審査会員にご推挙

いただき有難うございます。
お導きいただいた師・大野
祥雲先生、祥筆会の仲間の皆
様に感謝いたします。

「光」は、あかるい未来に
希望を持って人生航路を歩ん
で行くとの想いで制作。古典
を消化しながら情報発信して
行きたいと思っております。
（嶺雲）



「蓮葉のにごりにしまぬ心
もて...」古今集



須田
清子
(東京)

「蓮葉のにごりにしまぬ心
もて...」古今集

私の師、下谷洋子先生の様な
のびやかで斬新な仮名という
テーマは私にとって永遠の課
題です。審査会員という立場
を、これから先の登龍門と考
え、仮名の奥深い美の表現の
勉強が出来たらと願っております。
（清子）

平成20年度 新審査会員作品

岩崎竹渓（か）・高橋秀（刻）・佐藤星沙（現）・鈴木善見（前）

完



岩崎竹渓
(大阪)

「そのにほひ桃より白し
水仙花」(芭蕉)

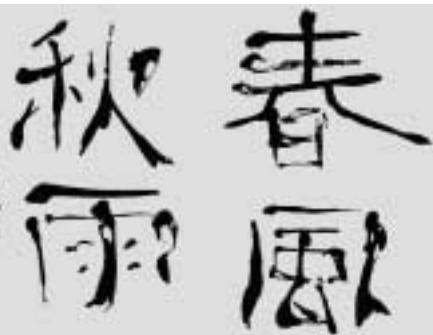
かな書は線のリズムが大切
と下谷先生は言われます。白
と黒の余白の美を追求しながら
強い線の創出に意を注ぎ、
古典の勉強等地道な努力を積
重ね、更なる向上を目指し情
熱をもって精進いたします。
(竹渓)



高橋秀
(群馬)

「獨」

現役を退き、ゆとりある
「獨」の時間が得られる今、
(書・刻)を楽しむことに喜
びを感じています。
この道に導いて頂いた先生
に心から感謝し、良き師の書
への情熱を手本に今後も精進
して参りたいと思います。
(秀)



佐藤星沙
(千葉)

「春風秋雨」

人生半ばで去った亡き夫の
墓石に刻した言葉。春の花が
風で散り、秋の紅葉に雨が降っ
たりで、人生ままならぬこと。
デコボコ道を歩みながらも、
諸先生、良き先輩に支えられ
てのスタート地点。四季を慈
しみ書の美を楽しんでいきた
い。

(星沙)



鈴木善見
(富城)

「歩」

書を始めて、25年目を迎
ますが、何一つ満足に書けず
に今日に至っている。前衛書
だけが唯一、今回賞をいただ
き何とか書いて楽しんでいま
す。

古典の技法を学び、精神面
から来るコンディションやタ
イミングが線質や白黒の構成
に大きく左右しますので制作
に努めています。今後共、ご
指導をくださるようお願いし
ます。

(善見)



特集：書道芸術院秋季展

今回の秋季展も昨年同様、財團役員、審査会員選抜作品に加え、審査会員候補の公募という形で9月30日から10月5日まで東京セントラル美術館にて開催されました。また、同美術館7階では「恩地春洋書展」が、8階では「馨香会書展」が催されました。

審査会員候補の皆さんから多数の応募がありました。浜谷芳仙の各先生方により厳正に審査され、入賞入選が決定されました。

初日の9月30日（火）には、入賞入選者の表彰式と、作品研究会、祝賀懇親会が行われました。研究会は秋季菊花賞受賞者の作品に対する姿勢や構想、

今年の秋季展も昨年同様、財團役員、審査会員選抜作品に加え、審査会員候補の公募という形で9月30日から10月5日まで東京セントラル美術館にて開催されました。また、同美術館7階では「恩地春洋書展」が、8階では「馨香会書展」が催されました。

審査会員候補の皆さんから多数の応募がありました。浜谷芳仙の各先生方により厳正に審査され、入賞入選が決定されました。

秋季展実行委員長 小浜 大明

今回の制作に対する考え方等を発表していただき、各部の審査員よりコメントをいただきましたが、辻元大雲先生の名進行で、有意義な意見が引き出され、充実した時間となりました。

研究会の後に行われた祝賀懇親会には、多数の会員と来賓が御参加くださいました。恩地春洋理事長の主催者挨拶に続き、全日本書道連盟事務局長の星弘道先生、創玄書道会副会長、大井錦亭先生より御祝辞を賜り、毎日書道会専務理事、寺田健一様の乾杯の御発声で秋季展のオープニングを祝いました。

恩地春洋先生の個展と、馨香会書展盛會に終了できましたのも、諸先生方の一方ならぬご支援の賜物と多くの参觀者でございました。感謝申し上げ報告いたします。

会期 平成20年9月30日(火)～10月5日(日)
会場 東京セントラル美術館

- 審査会員選抜作家作品
- 審査会員候補公募作品

書道芸術院秋季展



〈研究会〉

書道芸術院秋季展 〈審査会員候補公募状況〉

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	入選	落選
かな	29	16	2	4	10
漢字	111	77	3	20	54
現代詩文書	51	33	2	9	22
前衛	48	53	3	9	41
篆刻・刻字	3	2	0	1	1
計	242	181	10	43	128



〈表彰式〉



〈秋季菊花賞受賞者の皆さん〉

秋嶺に

〈遠き夢〉



174×57.5cm

常任総務 尾形澄神

〈RIN-凜-〉



常任総務 太田蓮紅 70×152cm

〈凝視〉



常任総務 真下京子 87×117cm

常任総務 生田翠龍



172×51cm

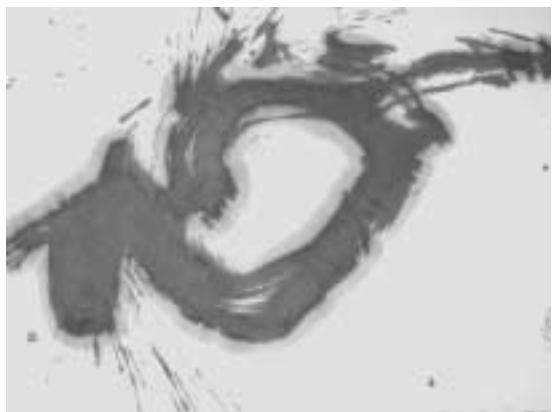
〈原石鼎句〉



常任総務 飯沼恵鳳

180×58cm

〈心〉



常任総務 石田春窓 91×121cm

〈天地〉



常任総務 小池蹊舟 97×89cm

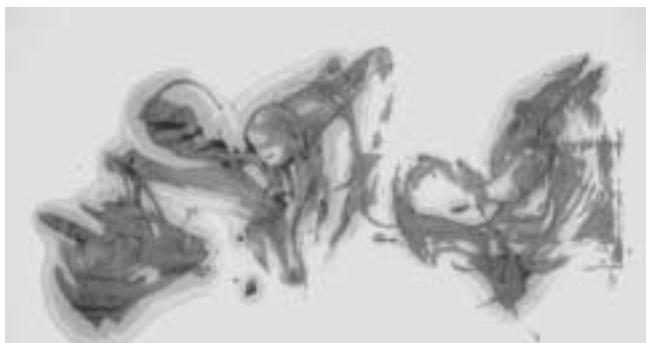
〈六言一句〉



常任総務 半田藤扇

174×56cm

〈よるかがく〉



常任総務 山口仙草 73×152cm

めぐらあい



135×70cm

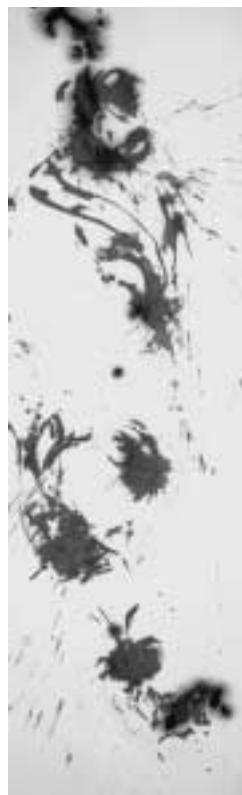
常任総務 恒次鶴城

春秋



常任総務 山藤 美知子 60×170cm

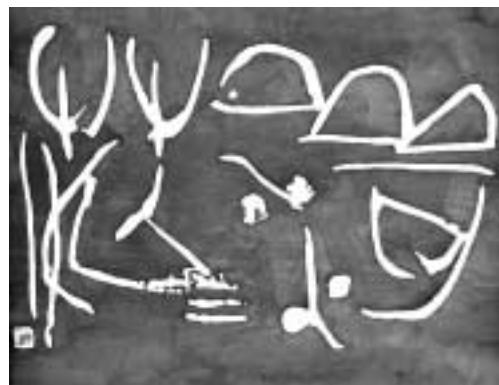
みこと



常任総務 大井 美津江

182×54cm

山河茫



常任総務 加藤如石 36×46cm

さかな



常任総務 田村 鄭雲

152×73cm

特集：書道芸術院秋季展

〈春江花月夜〉



167×53cm

常任総務 小島小汀

〈大悲〉



常任総務 平岡千香子 73×152cm

〈悠〉



182×61cm

常任総務 長谷川昂詩



180×48cm

常任総務 町山美扇

〈木々〉



常任総務 前田龍雲 89×97cm

〈書の月〉



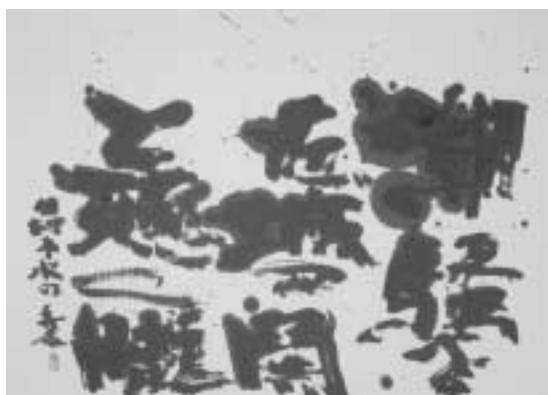
152×73cm

〈愚〉



120×90cm

〈潮騒〉



82×113cm

〈匹馬来…〉



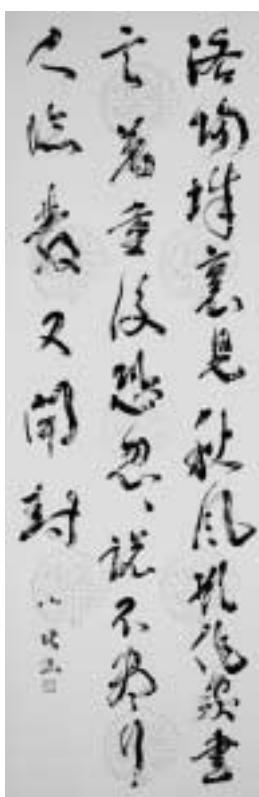
165×45cm

〈龍による〉



61×182cm

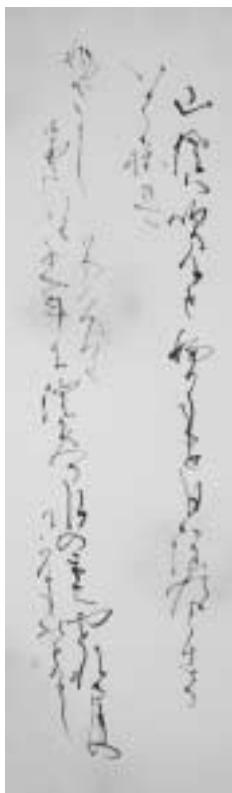
〈秋思〉



常任総務 守田小映

163×53cm

〈山風は〉



常任総務 天海矩子

180×52.5cm

〈芳〉



常任総務 北村白疏

152×73cm

〈壺中天地〉



常任総務 加瀬澄春

177×57cm

〈り〉



常任総務 崎井惠風 120×90cm

〈風雲〉



河岡北秀

182×61cm

〈水旅〉



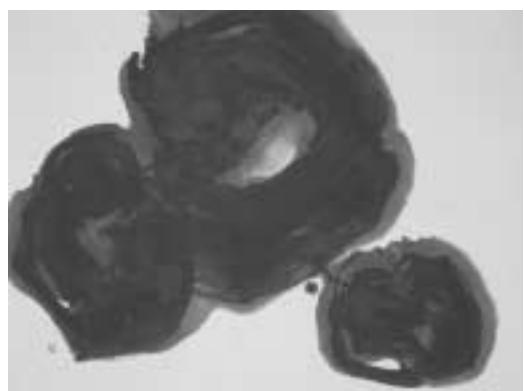
佐藤華炎 120×90cm

〈穂積生萩〉



長島儀雨 53×175cm

〈環〉



鎌 匠子 91×121cm

〈瞬時の煌めき〉



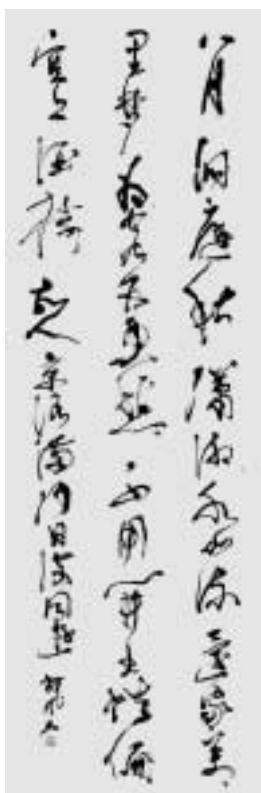
菊田杏仙 89×120cm

〈永久に〉



一條紅蕭 61×182cm

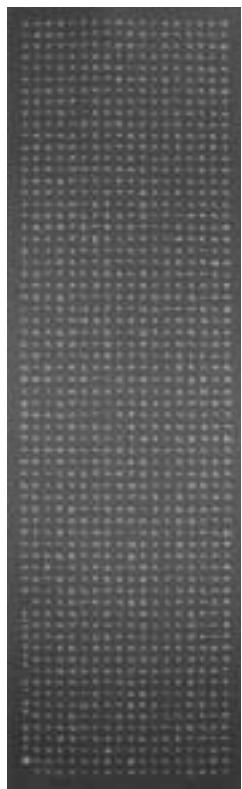
〈八月洞〉



大野輝風

165×53cm

〈老子・道經〉



蜜波羅鳳雲

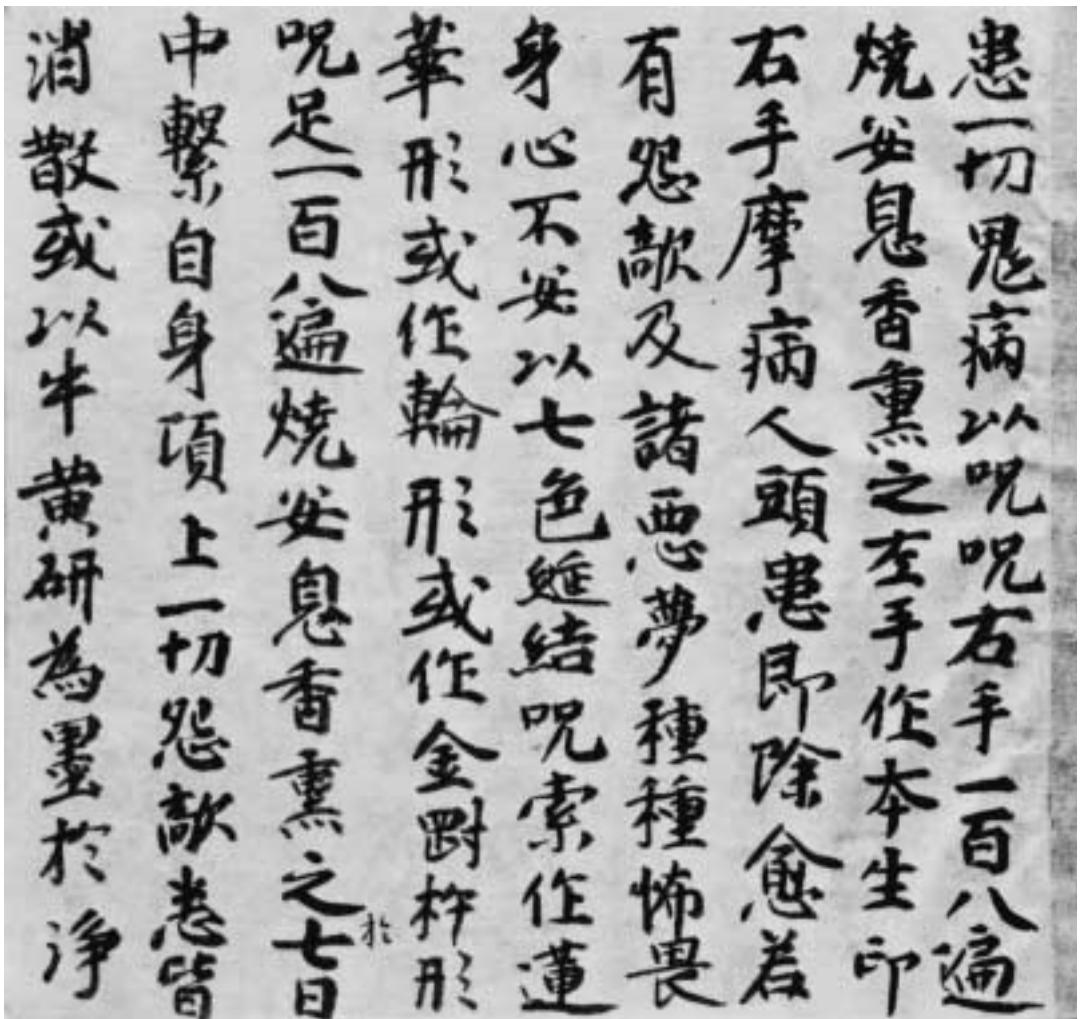
172×51cm

〈朝ぼらけ〉



庄司紅邨

178×48cm



患一切鬼病以呪呪右手一百八遍
燒安息香熏之左手作本生印
右手摩病入頭患即除愈若
有怨敵及諸惡夢種種怖畏
身心不安以七色綻結呪索作蓮
華形或作輪形或作金剛杵形
呪足一百八遍燒安息香熏之七日
中繫自身頂上一切怨敵悉皆
消散或以牛黃研爲墨於淨

〈解説〉

空海の請來目録には、三十帖策子は「廿余經生」に書写させたと見えていた。また、醍醐天皇の延喜御記の延喜十八年（九一八）三月一日の条には、空海と橘逸勢とが書写したと記されている。三十帖策子を見ると、いろいろな書風がまじっているから、寄合書であることがわかる。そのうちに空海の筆跡と認められるものがある。そのほか唐の「廿余經生」の筆跡である。延喜御記には逸勢の筆跡がまじっていると見えているが、現在のところ、逸勢の筆跡と認めることができるものは無い。留学生として入唐した逸勢には書写しなければならない経書・史書・詩文集がたくさんあったことと考えられる。さらに逸勢も三十帖策子を書写したにしても、逸勢の筆跡はなくなり、残つてないのかも知れない。

用紙 半紙普通判
||注||

漢字研究部競書作品は、
上の法帖の中から

何文字臨書してもよい。

(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

〇〇臨

(押印のみも可)

※落款を必ず入れる。
署名：もしくは〇〇臨
(押印のみも可)

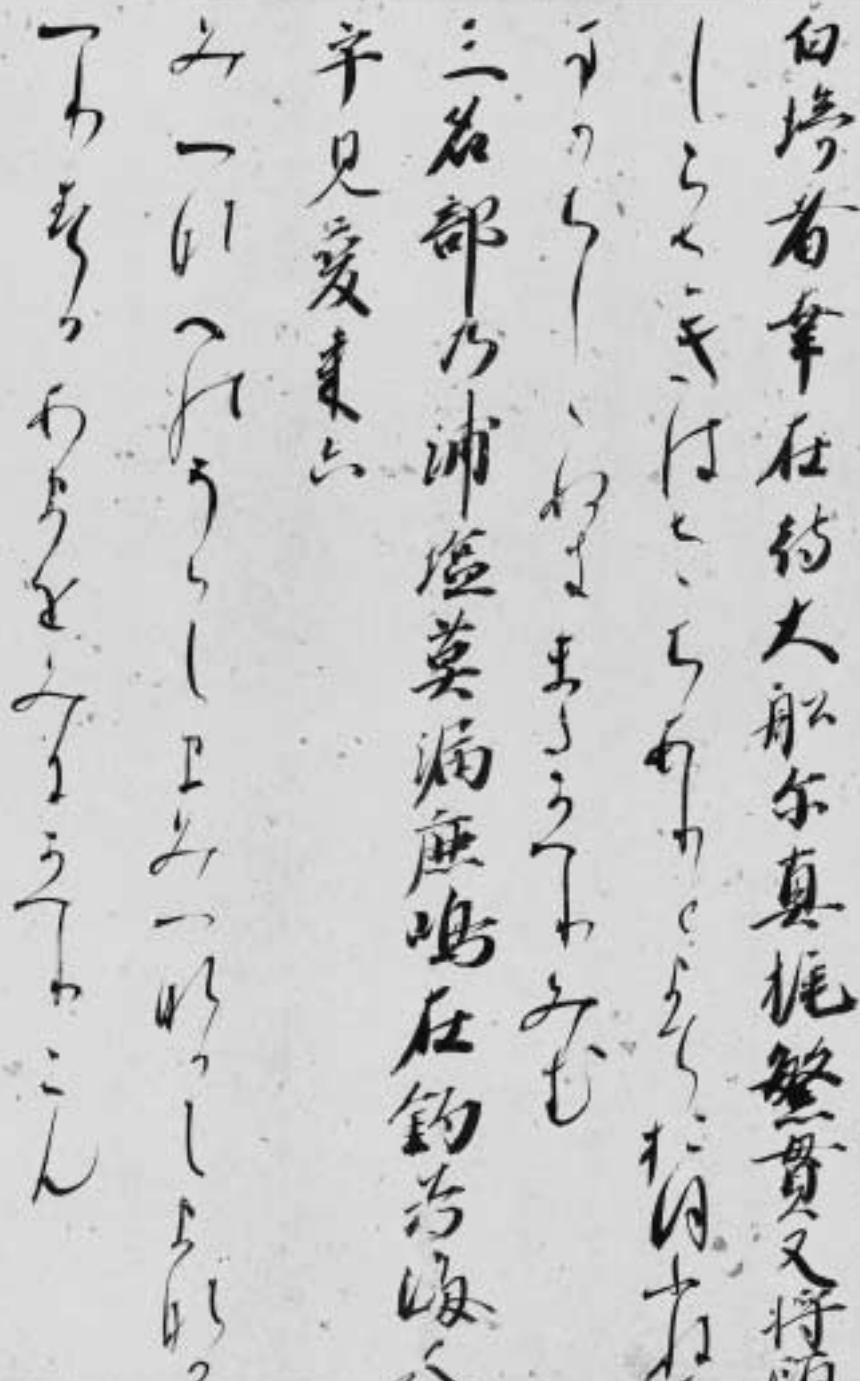
白崎者幸在待大船尔真梶繁貫又將顧
しらさきはさらありとまでおほふねに
万可利多可利多可利多可利多可利多可
まかぢしづぬきまたかへりふむ

三名部乃浦塙莫漏鹿鳴在釣為海人
平見麥来六
みつなべのうらしまみつなかしまなる
つりするあまをみにかへりこむ

〈解説〉 料紙にはさらに、行の天地を揃える
ため、上下に薄墨で横界が引かれている。万
葉集を書写した巻子だが、現存しているのは
卷九、一〇、一八の零巻または断簡のみであ
る。最も長いのは卷九で、京都国立博物館に
所蔵されている。

(編集部)

※左記の掲載
歌一首以上を書く
(全臨も可)
用紙
・半紙普通判
(料紙可)



習い方解説(二)

西林乘宣

圖書時自娛
(図書時に自ら娯しむ)

絵画に書物、折りふし自ら眺め
広げてたのしむ=「墨場必携」間
適類五字の中から。

一転して隸書です。私はよく言
うのですが、展覧会作品というと
みな行草ばかり、明けても暮れて
もです。漢字には五体があるのだ
から、それらに挑戦されてはいか
がでしょう。行草しか書けないで
なく、時間をかけて各体に通ずる
ようにしたいものです。

さて、隸書は手掛けみるとそ
れなりに面白く、時のめり込む
人がおります。「曹全碑」や「張
遷碑」を手本に隸書の用筆や基本
を勉強することは勿論、そこから
発展して極端に扁平な字形、濃墨
で渴筆をねらったもの、時に滲み
を強調したもの等々表現法は色々
とあります。ヨコ画は水平に。

圖(図)書時自娛

よみ(図書時に自ら娯しむ)

書体=自由



習い方解説(二)

依岡紫峰

温故知新
(おんこちしん)
論語

古い事柄を研究、吟味して、そこから新しい知識や技能を得る。書道においても大切な教訓だといえる。

「古きをたずねて、新しきを知る」



書体＝楷書

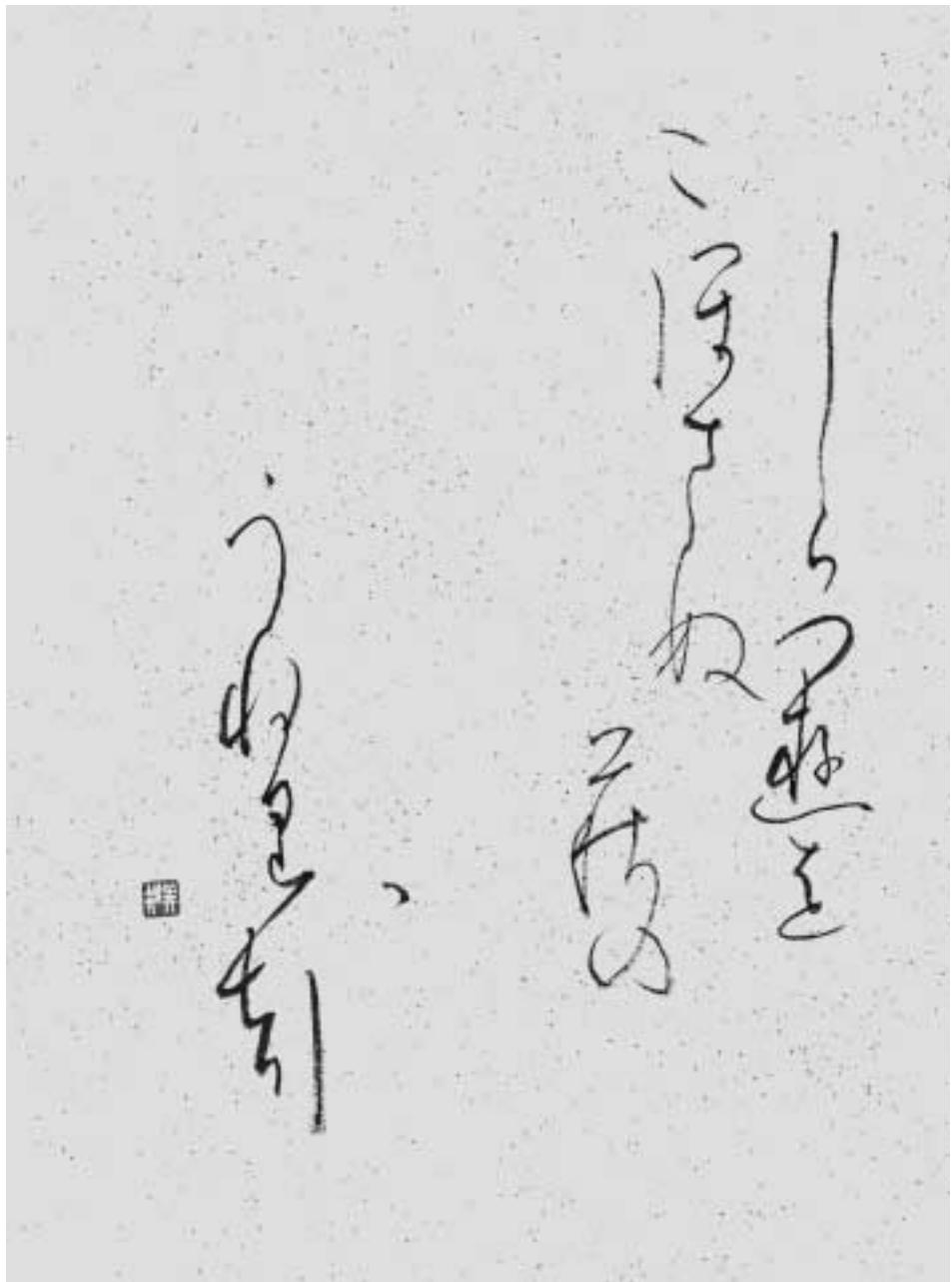
「温」 安定した外形、偏と旁の組みあわせに工夫を。
「故」 温を受けて、故は変化と充実した構成にしたい。
「知」 偏に対して旁は小さくまとめて動の変化で温とひびきあうように。
「新」 作品全体をまとめる。最終たて画の位置と長さに注意して。

かな規定 初段以上【十二月十五日締めきり】用紙 半紙普通判（料紙可） 山藤美知子選書

習い方解説 (二)

山藤 美知子

しらつゆをこぼさぬ萩のうねり
（松尾芭蕉）
哉



創作

散らし書きにはいろいろな方法がありますが、こう書かねばならないという規則はありません。作例を参考にして、いろいろな表現を試みてください。
四行書きとしました。行の強弱を鮮明にし、右下から中央、左上へかけて大きな余白をとります。それぞれの余白の調和に注意してください。
「うねり哉」を大きく豊かにして安定感を出しました。
いちち毛の小筆を2~3位おろして書いています。

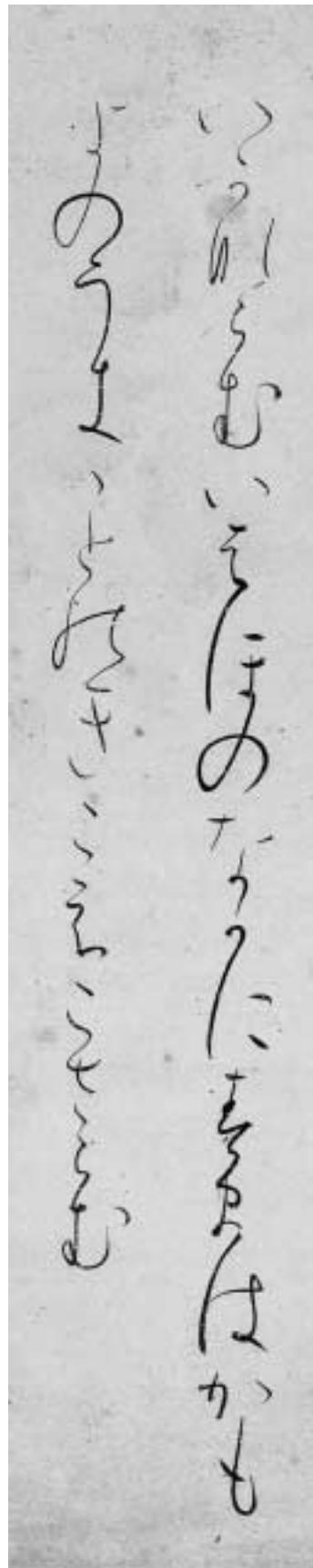
よみ方 しらつゆ(遊)をこぼさぬ萩のうねり(里)哉

かな規定 秀級以下【十二月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



習い方解説 (二)

朝倉春江

朝倉春江選書

かな条幅規定【十二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

さらぬだに夕べさびしき山さと
の霧のまがきにを鹿なくなり

(千載集)

横書きの基本は、まず、文字の
大小をつけて、一行の字数は二~
五字くらいが適當です。短かい行
を添えたり、一・二字を張り出し
たりして、アクセントをつけると
変化が出ます。一般的に行尾は輕
く小さくして、動きをはかります。
*よじ形式に限る



創作



出品券
貼付位置

よみ方 さ(佐)らぬだ(多)に(一)夕邊さびしき(文)やま(万)里の
霧の(濃)ま(萬)が(可)きに(耳)を(越)鹿な(奈)へ(入)な(那)り(利)

よみ方 いか(可)な(那)らむこは(者)ほのなか(可)にす(春)まばかもよのつま(枝)いとの(船)かいひやいかむ

習い方解説 (二)

小林琴水

今年花落顏色改
明年花開復誰在
（今年花落ちて顔色改まり 明年花開くも復た誰れか在る）

書体＝自由



ゆっくりと筆を入れ、鋭い筆致で切れ味を出していきます。リズムをつけて書いてください。最後は静かにおさめましょう。

漢字条幅規定 秀級以下【十二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

一谷春窓選書

習い方解説 (二)

一谷春窓

書体＝自由

樂意在泉石

春 窓 書

樂意在泉石
(樂意泉石に在り)

水や石、即ち山水の景にこそ楽し
い気持にさせてくれる。太い線が
強くて細い線は弱いとは言えない。
太いだけで骨力の無い作品もあ
れば細くても鋼のよう強い作品も
ある。手習いに加えて目習いが大
切です。展覧会は勿論、競書の論
評を照らし合わせ見て、このよう
に表現してみようと思ふ事は

習い方解説 (二)

安齋映心

私の未熟な筆ではこの花の
千分の一の美しさも描き出す
ことはできまいしかし私は
この花をいつまでも心に留めて
おきたい 范未書

富弘さんが最初に仕上げた絵はランの花でした。彼には「美しさに感動できる心があれば、口でも絵が描ける」との信念がありました。文字を学ぶのも、同じではないでしょうか。

日常で文字を書く場合は、ほとんどといってよいほど、平仮名と行書です。しかし、行書だからといって、むやみに続けないようにしましょう。字を崩すということは、線をむやみに続けることではないのです。線のつなぎを「連綿」というのに対して、気持ちでつながることを「意連」といいます。よい線を書くためには、運筆の速度と筆圧を図りながら、「意連」の通じたリズミカルな流れを大切にしたいのですね。

※落款を入れ忘れないようにしてくださいさい。(落款は自分の名前を入れてください。)

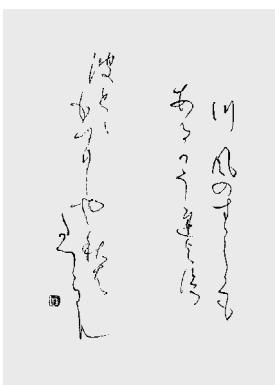
用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 568

かな部 師範 高橋はる江
自然な呼吸で筆を運ぶ勢いがし
なやかで美しい。文字や用筆の理
解が適格なためで温かさも好感。
◎かな部総評 比較的誤字もなく、
安定した作品が多くたが、川は
かはになるので、指導者は特に注
意を払ってほしい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 益子 翠蘭
帛書風にリズム感よく表現され
た技術に安定感あり。切れ味よい
筆致も明快で爽やかである。
◎漢字条幅部総評 上下級共参考
手本にやや頼りすぎ、線質、字形
の安定を欠くもの多し。自らの眼
でしっかりと確認を。(大雪評)

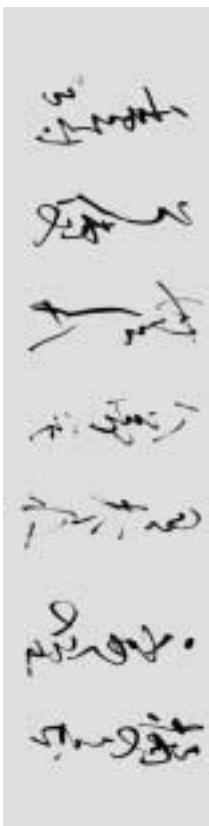
現代詩文書部 特選 村田 華雲
伸び伸びとして明るく、筆致爽
やか。詩文と作風がマッチした情
感溢れた作品である。

◎現代詩文書部総評 作風が多様
化してきたが、線質、作風、詩文
との融合性を考えよう。(素雪評)



かな条幅部 準師 杉浦 菊枝
控えめの字が行間を美しく残し、
涼しく気品のある作品を生みまし
た。深遠な心を感じさせられます。

◎かな条幅部総評 變体がなの誤
字が目立ち残念。解説を熟読し、
基本形を調べる習慣をノ落款まで
が作品と認識すること。(明子評)



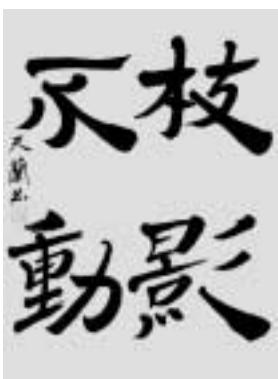
前衛書部 特選 石森 光琴
扇子を持って踊っている感じが
作家の意図か? 曲線美と躍動美
が心を捕える。
◎前衛書部総評 回を増すごとに
成果が見えます。今後も感動する
作品を期待します。(光昭評)



ペン字部 師範 加藤 龍恵
結体よく線澄み安定していて、
布置、落款まで申し分ない風格作
情こもり心に韻きます。
◎ペン字部総評 散らし書きの余
白の空け方と最後の行「今日も旅
ゆく」六字の表現に苦労されたよ
うに感じました。(京華評)

漢字部 師範 木村 天蘭
筆先を包み込んだ藏鋒で線質は
重厚で安定する。右払いが堂々と
して全体を支えている。

◎漢字部総評 リズムの強弱は呼
吸の仕方で決まる。字形は書く人
の呼吸によって決まる。呼吸の仕
方はみな異っている。(春洋評)



漢字研究部
(文皇哀冊)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



岡崎翠園

漢字研究部 総評
文皇哀冊については、書道芸術7、8月号
筆遣いがよいので、線の太い細いのアクセント、造形上の特徴もよく掴み、線も温雅で強い。鳴呼の二字に限ってみても、偏(口)を引き締め、旁(鳥、平)は発散。それに余白を生かした四字のまとめが素晴らしい。

筆遣いがよいので、線の太い細いのアクセント、造形上の特徴もよく掴み、線も温雅で強い。実際、法帖を見ますと、書体は楷書と行書の中間体。字形は扁平、縦長、上が大、下が小、点画の省略などさまざま。中には伸びやかな線を加えたり、デフォルメしたものもあります。こうした特徴を凝視してから筆を持ってほしい。ある程度大きく書いてから細く書くのがよいかと思います。



溪み彩一 佑箕
ど
仙り雨紅子城

正喜惠和南青
久
美子子香汀山

本澄秀谷幸華
古星なご
子仙扇涼平炎

聰麻香
塘華み
苑美月

かな研究部
(和泉式部続集切上巻切)

選評 山藤 美知子

今月のホープ作品



信紅雅

溪雅芳

怜喜佳代

扇子子

良輝恵

泉子子

初嵐つや

子泉江

伊藤英子

◎かな研究部総評

かな研究部特選 伊藤英子
軽快な流動感とまろやかな線がよく調和して、この古筆の特徴をうまくとらえています。爽やかさを感じ秀作です。用紙一考。

墨量が多いと思える作がたくさん見うけられ、筆の抑揚(上げおろし)のしかたで墨量を調節し、墨つきを多くしないよう、一考してください。

かな研究部成績表

八大正誠大京高 戸雲華和拙橋秀	五桂秀洞正大桂秀 葉月峰書華阪泉州	蘭玉東秀蓮華竹椿正竜千安卯秀正 鼎松小峰紅祥麗翠華泉華葉波月水華
市磯石荒東青木 川貝橋崎木	森小柳安星橋長寺三川橋佐渡遊加木百神後木河鈴新高伊 田川堀藤野本村澤嶋崎本久辺佐藤下不保廉原野木谷木 間野	特選 木橋藤野
紫清知甘孫花理子 泉羅子雨功子	睦輝政楊佐都朝悟敏優紅節信紅雅怜代佳良輝恵や嵐初英 子峯翠風枝子子子霞雅芳麗子子泉子子泉江子	間
八街佳	春京春霜竜春澄京 A も清正森椿幕竜英明館戸椿う玄竜竹英正大青安椿 A 汀橋汀月泉汀春橋 I く雪華地翠張泉峰漢山出翠る象泉扇峰華雲峰波泉翠 I	A
足助作 <small>60歳</small>	吉吉湯山湯増堀藤西長永東竹高鈴嶋小小木木木木河片加楓鹿小岡遠伊 原田田本口野田川村川島井平森橋橋木山路林村下内岡野瀬川島野部藤	佐寺
実枝	枝佑泰桂美津華魯昌藤一宏絹弓賢雅多絃笙千晃順都志星美良絹裕久照珙寿 月泉枝春子象水枝子雲泉美子代子子龍扇代子苑美芳案子	寺

紳大さ秀 玄雲つ水 入	こ明帝姉五 だ漢塚玄葉	千大小大千洞青調千石 大玉卯翠仙紅長治硯昌大木華高鬼大太姉千広大春 葉坂中雲葉書峰布字舟	こ石秀高岩澄椿華八 阪葉月柳台瑠月天水苑泉雲曜祥島高雲阪玄葉島阪汀だ習明陵沼翠祥
新朝明青井倉石木	吉吉横村真松松松増堀平濱野永内富徳遠津近高鈴川巣柴佐櫻黒黒熊熊神川河龜神香小冲梅内岩井石飯安安熱 野田井田庭重佐澤切山田村沢守藤田田山田池橋木浦本 タク	佐	佐
静爽麗か江陽子よ	彩鶴正珠ヶ藍翠白幸功彩竹成蕙 古萩秋希幸柳敏智菊麻翠初龍竹幸谷紫典瑠智紫雲富萩和虹皓洋靜正紫代華紅 子江風 華景鈴子雲華雪子雅薰塘彩峯子芳子広枝子泉香貞葉穂涼蘭子雲子風卿光子祥泉子香子苑子祥	佐	佐
正た英澄姉稻英や竜大京翠八艸湘こ詢調英高幕大彩信広梓広大竜大伏生福千上春 A 澄東前誠姉澄大誠竜桂石も書艸遊大こも 華か峰春玄毛峰ま泉阪吟街玄南だ扇布峰崎張阪 篤島江島雲泉阪華大山葉泉汀 I 春総橋と玄春阪と泉月習く泉玄雲阪だく			
椎猿佐斎齊斎斎斎後近古小小工木吉北岸岸神川川河加貝小小岡大大惠生宇薄碓鷦捕植宇岩入今井大伊伊石池池五新 名渡藤藤藤藤藤藤矢森嶋鳥藤村瀬村本本田成本元本合藤實賀川本棵沢南方田田井澤木井根谷村野飼藤坂田田十井 由か美多野ゆふ	吉吉横村真松松松増堀平濱野永内富徳遠津近高鈴川巣柴佐櫻黒黒熊熊神川河龜神香小冲梅内岩井石飯安安熱 野田井田庭重佐澤切山田村沢守藤田田山田池橋木浦本 タク	吉吉	吉吉
幸冬桂絹早つ知喜松閑蹊か路み香淳彩欣惠萩東行南茱紫和龍窓代雅真幸淑龍美春春 琴如楠恵悠貴玉道惠則惠尚萩佳藤 子華香香子子苗え子子春窓翠り子子蘭子雨子舟茜子子汀仙仙敬惠萩子子峰江江惠子華綠弘舟風麗峯花泉香石子子古溪米雪	彩鶴正珠ヶ藍翠白幸功彩竹成蕙 古萩秋希幸柳敏智菊麻翠初龍竹幸谷紫典瑠智紫雲富萩和虹皓洋靜正紫代華紅 子江風 華景鈴子雲華雪子雅薰塘彩峯子芳子広枝子泉香貞葉穂涼蘭子雲子風卿光子祥泉子香子苑子祥	吉吉	吉吉
青竹八華玉藤竜も鬼千硯正春澄石皓春青春秀土前さ八椿遊姉千秀五も大竜 泉湘英有富青澄紅高東紅高正大樹明春千弘 峰美生祥川 泉く高葉水華月春習映喜峰汀水氣橋つ街翠雲玄葉水葉く雲泉 会南峰秋貴峰春瑠陵岳瑠崎華阪原漢汀葉舟 外	彩鶴正珠ヶ藍翠白幸功彩竹成蕙 古萩秋希幸柳敏智菊麻翠初龍竹幸谷紫典瑠智紫雲富萩和虹皓洋靜正紫代華紅 子江風 華景鈴子雲華雪子雅薰塘彩峯子芳子広枝子泉香貞葉穂涼蘭子雲子風卿光子祥泉子香子苑子祥	吉吉	吉吉
169吉吉横山山谷八森森最村宮宮松松堀藤藤福平春浜羽橋西中戸富都戸積土辻田田武滝高高高住砂須杉菅神庄社下没鹿 名野田山田崎知重田上上田澤崎川内丸田 島井鳥山島成本澤藤村澤丸部田谷野中中山田谷野司本田谷内 氏裕桿志和と理みま	吉吉横山山谷八森森最村宮宮松松堀藤藤福平春浜羽橋西中戸富都戸積土辻田田武滝高高高住砂須杉菅神庄社下没鹿 名野田山田崎知重田上上田澤崎川内丸田 島井鳥山島成本澤藤村澤丸部田谷野中中山田谷野司本田谷内 氏裕桿志和と理みま	吉吉	吉吉
名朋光蘭静桜美溪龍藤絹笑草愛春幸愛映津純晴歌優勝よ紅日彩雅博恵ど悦雅つ洋可吉蒼芳照千杏合和琉香秋悦萩咏三代爱洋 略子治舟江子泉博谷江華秋美蓮平石華子一子子子美子楓和峰子舟子り子雲江子三惠子枝子代華舟子子碧艸和子華翠	吉吉横山山谷八森森最村宮宮松松堀藤藤福平春浜羽橋西中戸富都戸積土辻田田武滝高高高住砂須杉菅神庄社下没鹿 名野田山田崎知重田上上田澤崎川内丸田 島井鳥山島成本澤藤村澤丸部田谷野中中山田谷野司本田谷内 氏裕桿志和と理みま	吉吉	吉吉